

大総務第63号  
令和8年3月3日

大阪市外郭団体評価委員会  
委員長 小林 あや 様

大阪市長 横山 英幸  
(担当：総務局行政部総務課法人グループ)

### 諮問書

大阪市外郭団体等への関与及び監理事項等に関する条例（平成25年大阪市条例第10号）第7条第1項に規定する外郭団体である公益財団法人大阪国際平和センターによる令和7年度の経営評価（対象事業活動の実績）の結果及び同条第4項に規定する当該経営評価の審査の結果について、同項の規定に基づき、別紙により諮問します。

令和7年度 事業経営評価

団体名	(公財) 大阪国際平和センター	所管所属名	教育委員会事務局
-----	-----------------	-------	----------

中期目標	(1) 当該外郭団体の事業経営を通じて達成しようとする本市の行政目的又は施策の具体的な内容
	特定の歴史観や考え方に偏らず中立的(中立性の確保)に、事業を実施していくこととともに、「大阪中心」・「子ども目線」で「平和を自分自身の課題として考えられる」ような展示を行い、もって大阪市内に居住する小中学生をはじめとする多くの市民に戦争の悲惨さや平和の尊さを伝え、平和を願う豊かな心を育むこと。
	(2) 中期目標期間
	令和7年4月1日から令和12年3月31日までの5年間
	(3) 中期目標の期間終了時において、(1)の行政目的又は施策によって実現しようとしている状態
	大阪市内に居住する小中学生をはじめとする多くの市民が、「大阪中心」・「子ども目線」で「平和を自分自身の課題として考えられる」ような当館の展示等に接することにより、戦争の悲惨さや平和の尊さについて考え、平和を願う豊かな心を育んでいる状態。

外郭団体の自己評価	当該事業年度の指標及び目標に基づく評価を踏まえた団体の総合的な評価	
	中期計画の初年度である令和7年度は、戦後80年にあたる節目の年であり、国や自治体レベルでも様々な取り組みが行われる中、当館としてもそれにふさわしい特別企画事業を開催し、例年にも増して多くの府民、市民に対して平和への情報発信をすることができたことと認識している。また、今年度は、大阪・関西万博への小中学生の招待の影響により、校外学習の機会がとってかわられたことで市内小中学校の来館率は目標値に及ばなかった。しかしながら、入館者数全体としては、外国人を含む一般入館者の増加により昨年の入館者総数を上回ったことは、当館の取組やSNSなどを活用した情報発信が寄与したものと評価している。	
	最終目標達成見込み	イ ア：達成 イ：未達成（計画の見直しは不要） ウ：未達成（計画の見直しが必要）
	最終目標達成に向けた課題及び課題解消に向けた次年度以降の取組について	
当該事業年度の評価	平和を取り巻く世界情勢が厳しくなる中、引き続き魅力ある事業の実施に努め、平和に関する情報発信を行っていくとともに、少し低下した小中学校の来館率を向上させるためのPR等に力を入れて取り組む。	
	当該事業年度の指標及び目標に基づく評価並びに当該評価を踏まえた本市の総合的な評価	
	主なターゲットである小中学生については、大阪・関西万博の無料招待事業の影響を受け、期間中の来館が伸び悩んだが、全体の入館者数は、戦後80年や、外国人を含む一般入館者数の増により目標値を達成したことから、計画の見直しまでは不要と考える。引き続き効果的な取組に努めていただきたい。	
市の評価	助言等及び講ずるよう求める措置の内容【大阪市外郭団体等への関与及び監理事項等に関する条例第7条第5項】（※必要な場合のみ）	

対象事業活動の実績に関する評価(事業活動に関する事項)

取組一 1 (※分野ごとの評価)

中期計画	団体が中期計画期間中に行政目標達成に向けて取り組む具体的な内容
	大阪市小学校校長会や中学校校長会等において、平和学習の場としてピースおおさかの利用を呼びかけるとともに、来館率の低い区の小中学校校長会へ個別に働きかけを行うなど積極的な周知活動に取り組んでいく。

【計画】団体が当該事業年度に取り組む具体的な内容		【実績】団体が当該事業年度に取り組んだ具体的な内容				
最も来館者数の多い区分である小中学生の来館をさらに促進するため、小中学校校長会などの学校関係者の集まりにおいて、20回程度のPRを行い、高い来館率を維持する。		来館率の低い地域なども考慮し、小中学校の校長会などの機会をとらえて、リーフレット等を配布し、来館案内を行うとともに、併せて関連する平和学習メニューの利用案内も行った。				
指標 I	大阪市立小学校全校に対する来館率					
	R7	R8	R9	R10	R11【最終】	
目標値	62%					
実績値	60.6%					
参考： 中期計画目標値	62%	85%	85%	85%	85%	
当該事業年度の目標達成状況	b(i)	《達成状況》 a：目標達成：(i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった b：目標未達成：(i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった				
指標 II	大阪市立中学校全校に対する来館率					
	R7	R8	R9	R10	R11【最終】	
目標値	16%					
実績値	14.7%					
参考： 中期計画目標値	16%	25%	25%	25%	25%	
当該事業年度の目標達成状況	b(i)	《達成状況》 a：目標達成：(i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった b：目標未達成：(i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった				

外郭団体の自己評価	中期計画に対する進捗状況【当該事業年度】	イ	ア：達成 イ：未達成（計画の見直しは不要） ウ：未達成（計画の見直しが必要）
	当該事業年度の達成状況について		
	令和7年度は、大阪・関西万博の開催に伴い、市立の小中学校への無料招待事業が実施されたことにより、例年来館のある学校のうち別途平和学習として校外学習を行う機会を設けられない学校もあり、小中学校ともに計画における目標値には届かなかった。 小中学校に対する積極的なPRや予約時の入館調整を行うなど、例年以上の取組を行ったものの、目標に達しなかったことは残念であるがやむを得ない側面もあり、次年度以降の努力が重要と考えている。		
	最終目標(中期計画)達成に向けた課題及び課題解消に向けた次年度以降の取組について		
今年度来館できなかった小中学校が次年度以降は来館してもらえるよう積極的なPRを行っていく。			

市の審査	中期計画に対する進捗状況【当該事業年度】	イ	ア：達成 イ：未達成（計画の見直しは不要） ウ：未達成（計画の見直しが必要）
	「外郭団体の自己評価」に対する審査結果		
	今期（4月から12月の9カ月）は、ほぼ大阪・関西万博開催期間と重なり、小中学生の万博への無料招待事業の影響を受けたため、残念ながら目標には達しなかったが、取組自体は有効であったと考え、自己評価は相当と考える。		
	「様式1：中期目標(3)」に対する取組の有効性	A	A：有効であり、継続して推進 B：有効でないため、取組を見直す
「中期目標」達成の視点からみた審査結果			
今年度は万博開催時期の来館率が大幅に減少したものの、それ以降については順調に推移しており、引き続き小中学校の校長会などへのPR、教員等の研修会等の誘致を行うことにより目標達成は見込めると考える。中期目標で定める「大阪市内に居住する小中学生をはじめとする多くの市民に戦争の悲惨さや平和の尊さを伝え、平和を願う豊かな心を育むこと。」につながるため、引き続き取組を継続することが有効と考える。			

対象事業活動の実績に関する評価(事業活動に関する事項)

取組一2 (※分野ごとの評価)

中期計画	団体が <b>中期計画期間中</b> に行政目標達成に向けて取り組む具体的な内容
	小学生をはじめとする来館者に対して、「大阪中心」・「子ども目線」で「平和を自分自身の課題として考えられる」ような展示を行うことで戦争の悲惨さや平和の尊さを伝え、平和を願う豊かな心を育む機会を提供するとともに、学校向けアンケートを実施して、平和学習に役立ったか、平和学習貢献度の調査を行う。また、アンケートの中で得られた意見・ニーズを踏まえて、取組の改善を行う。

年度計画達成状況	<b>【計画】</b> 団体が <b>当該事業年度</b> に取り組む具体的な内容	<b>【実績】</b> 団体が <b>当該事業年度</b> に取り組んだ具体的な内容				
	来館者アンケート等によりそのニーズを把握し、可能なものはできる限りの改善を図り、来館者サービス向上に努めていく。効果的な平和学習メニューの提供や混雑防止のための調整等を行い、平和学習貢献度の目標を90%とする。	常設展示や特別展示の実施、定時映画の上映、ワークシートの提供を通じて、平和学習としての効果・満足度を高めるための環境づくりに努めた。また、館内が混雑する日や時間帯をできる限り分散し、快適な環境で見学できるようにあらかじめ予約段階から調整を行った。				
	指標 I	来館した大阪市立小学校の平和学習貢献度				
		R7	R8	R9	R10	R11【最終】
	目標値	90%				
	実績値	95.9%				
参考： 中期計画目標値	90%	90%	90%	90%	90%	
当該事業年度の目標達成状況	a (i)	<b>【達成状況】</b> a：目標達成：(i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった b：目標未達成：(i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった				

外郭団体の自己評価	中期計画に対する進捗状況【当該事業年度】	ア	ア：達成 イ：未達成（計画の見直しは不要） ウ：未達成（計画の見直しが必要）
	当該事業年度の達成状況について		
	来館するほぼすべての小中学校からアンケートを回収し、見学の感想や意見の把握に努めた。特別展として行ったヒロシマ・ナガサキ原爆・平和展は、多くの学校から高評価をいただき、高い平和学習貢献度につながったと評価している。 また、見学環境に係るこれまでの学校ニーズへの対応も継続し、快適な見学環境を提供した。		
	最終目標(中期計画) 達成に向けた課題及び課題解消に向けた次年度以降の取組について		
常設展示や特別展示以外にも効果的な平和学習メニューを提供することが重要と考えており、次年度は新しく制作したアニメ映画の上映を開始する予定である。また、来館にあたっての事前・事後学習として開発した平和学習デジタルコンテンツの利用促進にも力を入れていく。			

市の審査	中期計画に対する進捗状況【当該事業年度】	ア	ア：達成 イ：未達成（計画の見直しは不要） ウ：未達成（計画の見直しが必要）
	「外郭団体の自己評価」に対する審査結果		
	当年度の実績値は目標値を達成しており、自己評価は妥当である。		
	「様式1：中期目標(3)」に対する取組の有効性	A	A：有効であり、継続して推進 B：有効でないため、取組を見直す
	「中期目標」達成の視点からみた審査結果		
今年度は戦後80年として「ヒロシマ・ナガサキ原爆・平和展」を開催する等、効果的な企画展により平和学習貢献度が高くなった。引き続き、学校のニーズの把握に努め、事前事後学習用の平和学習デジタルコンテンツの利用促進をはかるなどより、中期目標で定める「小中学生をはじめとする多くの市民に戦争の悲惨さや平和の尊さを伝え、平和を願う豊かな心を育むこと」に貢献していただきたい。			

対象事業活動の実績に関する評価(事業活動に関する事項)

取組一3 (※分野ごとの評価)

中期計画	団体が <b>中期計画期間中</b> に行政目標達成に向けて取り組む具体的な内容
	少子化傾向が続く中、小中学生の来館者数の増が見込みづらい状況下において、魅力ある特別展や企画事業等をSNSなども活用しながら情報発信し、若い世代などの集客を図ることに重点を置いて全体の入館者数の増加を図る。

年度計画達成状況	【計画】団体が <b>当該事業年度</b> に取り組む具体的な内容	【実績】団体が <b>当該事業年度</b> に取り組んだ具体的な内容			
		戦後80年の節目の年にふさわしい企画事業の実施、SNSなどを活用した情報発信に努め、若い世代に重点を置いて入館者数の増加を図る。	戦後80年特別企画と題した平和祈念事業や特別展などの事業実施やSNSなどを活用した情報発信を通じて、戦争の悲惨さ、平和の尊さを継承するための取組を行った。		
指標 I	入館者数				
	R7	R8	R9	R10	R11【最終】
目標値	58,200人				
実績値	59,876人				
参考： 中期計画目標値	58,200人	73,000人	74,500人	74,600人	74,800人
当該事業年度の目標達成状況	a (i)	《達成状況》 a：目標達成：(i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった b：目標未達成：(i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった			

外郭団体の自己評価	中期計画に対する進捗状況【当該事業年度】	ア	ア：達成 イ：未達成（計画の見直しは不要） ウ：未達成（計画の見直しが必要）
	当該事業年度の達成状況について		
	戦後80年にふさわしい特別企画事業の実施やSNSなどを活用した情報発信、展示解説の多言語化など増加する外国人の受入環境整備などにより、大阪・関西万博の影響で減少した小中学生の入館者数の減をカバーし、目標値を超える全体の入館者数を確保できたことは、これらの取組の成果であると評価している。		
	最終目標(中期計画)達成に向けた課題及び課題解消に向けた次年度以降の取組について		
全体の入館者数の約6割は小中学生であることから、減少した小中学校の来館率を上げるよう効果的なPRを行うとともに、引き続き魅力ある企画事業等を実施することにより来館者増を図っていく。			

市の審査	中期計画に対する進捗状況【当該事業年度】	ア	ア：達成 イ：未達成（計画の見直しは不要） ウ：未達成（計画の見直しが必要）
	「外郭団体の自己評価」に対する審査結果		
	大阪・関西万博の影響で小中学生の入館者数が減少したにもかかわらず、戦後80年にふさわしい特別企画事業の実施や展示解説の多言語化など増加する外国人の受入環境整備等を図り、目標を達成することが出来ており自己評価は妥当と考える。		
	「様式1：中期目標(3)」に対する取組の有効性	A	A：有効であり、継続して推進 B：有効でないため、取組を見直す
「中期目標」達成の視点からみた審査結果			
少子化により小中学生が減少する中、平和ミュージアムとしての当館の役割を果たすためには、全体の入館者数を増加させていく必要があることから、引き続き、より集客力の高いイベントや特別展等を開催するほか、SNSの活用等により情報発信の強化に努め、利用を促進して行くよう努めてほしい。			